



2003年度 宇井 恭一様

(所属：東京工業大学 現在：JAXA)

卒業後は積極的に関わってはいませんでした。UNISEC 自身も衛星やロケットの開発同様に試行錯誤を繰り返し、継続・発展してきたことは拝見していました。

この15年間の関係者の皆様の努力に敬意を表します。私は学生時代東工大松永研で CANSAT や CubeSat の開発に携わり、UNISEC 設立時に僭越ながら初代学生代表を務めさせて頂きました。

卒業後は JAXA に入社し、主に M-V ロケットやイプシロンロケットなど、固体ロケットの開発、運用に携わっています。

少し思い出話をしますと、UNISEC が NPO 法人として立ち上がる当時、学生の中では CANSAT や CubeSat の開発で自然に大学の枠を越えて情報交換をする場が形成されていたこともあり、NPO という組織にすることの意義が共有されていなかったと記憶しています。面倒が増えるのか？というような。。

そのような中で私が初代学生代表を務めることにしたのは、今後学生たちが宇宙を目指し続けるにあたり、個別の研究室の努力だけで進めるだけではいつか限界がくるだろうと感じていて、先駆者であった東大や東工大の枠を越えて、つながりを持つ必要が出てくるときがきっとあるだろう、その枠組みとして当時世間で話が出始めていた NPO という組織の可能性に興味があったのと、東大や東工大の誰かが手を挙げて立ち上がることに意味があるだろうと思ったからです。

結局、私はタネを蒔いただけで、その後育ててく

れたのは一緒に代表をした、当時東大（現アクセルスペース）の中村さんでしたが。。

そして、現在は国の枠を越えて、学生宇宙開発の大きな動きの中心に UNISEC がいると感じていて、私の貢献度合いは横においても誇らしい気持ちになります。

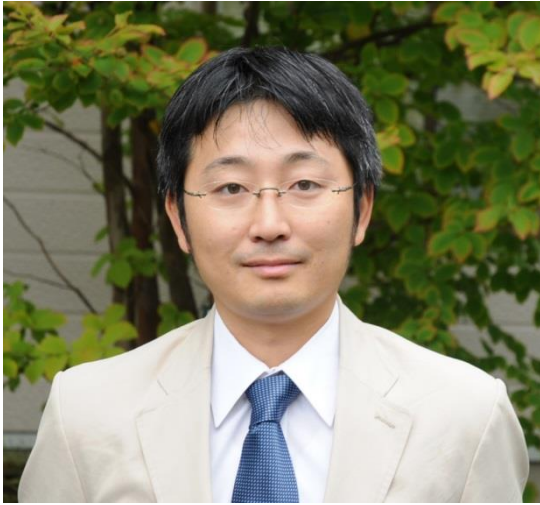
私が担当しているイプシロンロケットは4号機で初めて大学が作る超小型衛星と CubeSat を搭載し、打上げる予定です。主衛星となる小型衛星も UNISEC 出身の学生が作るベンチャー製です。UNISEC 出身の私がこのような形で JAXA で仕事をすることについては「縁」のようなものを感じています。

大学衛星を JAXA に載せるに際しては、双方に課題があるという認識はありますが、イプシロンロケットとしても多くの方々に使ってもらいたいと考えていますので、これからもよろしくお願いたします。

私自身、UNISEC の学生代表になったことで交友関係が一気に広がりました。

今、JAXA で仕事をされていて、いろいろな出会いがありますが、「UNISEC の宇井さんですよ」という話になることが多々あり、それだけで初対面の壁が払われることもあります。

宇宙業界はその周辺分野も含めて、裾野は広いです。このような学校の枠を取り払った組織での経験は得がたいものがあると思います。学生のみならずも是非 UNISEC に積極的に関することで、真剣に宇宙を目指すことの大変さ、面白さとその結果生まれる人間関係を大切にしてください。最後になりましたが、UNISEC が学生たちにとって、よりよい場所として継続・発展して頂く事を祈念します。



2005年度 和田 豊 様

(所属：東海大学 現在：千葉工業大学助教)

UNISEC15周年、誠におめでとうございます。UNISON代表（学生理事）としてはロケットグループからの最初の代表を勤めましたが、その時はまだどの団体も高度1km程度まで打ち上げる実験しかできませんでした。現在はロケットを海に向けて打ち上げる場所も作られています。ロケットの音速飛翔に挑戦する大学生の姿をみて、色々なことが挑戦できるようになったと感じると同時に、15年もたつてまだそんな高度しか到達していないのか、とも感じています。UNISECにはよき仲間とライバルがたくさんいる場所です。UNISECがお互いを刺激し合いより高め合える組織へと成長することを願ってやみません。互いに切磋琢磨し次の20周年では宇宙に大学ロケットが届いている時代を作り上げましょう。



2009年度 永峰 健太 様

(所属：九州大学 現在：明星電気)

本日は、UNISEC15周年記念イベントの開催、誠におめでとうございます。

今年度は、大変僭越ではございますが、UNISECパンフレットの「卒業生の声」を担当させていただきました。

執筆中、学生当時を振り返り思い至ったのは、UNISECでの2年間は、かけがえのない経験と先生方・仲間との出会い、夢と情熱をいただいた日々であり、その思い出と同期に対するライバル意識は、現在の業務でも負けない力になっていることです。いつも感謝しております。

代表の時のことについては、私達の頃は、学生運営を一言で表すと体育会系でした。いまの学生の皆さんにもきつと引き継がれていると信じております。

今後ともよろしくお願い致します。



2009年度 小林 雄太 様

(所属：慶應義塾大学 現在：JAXA)

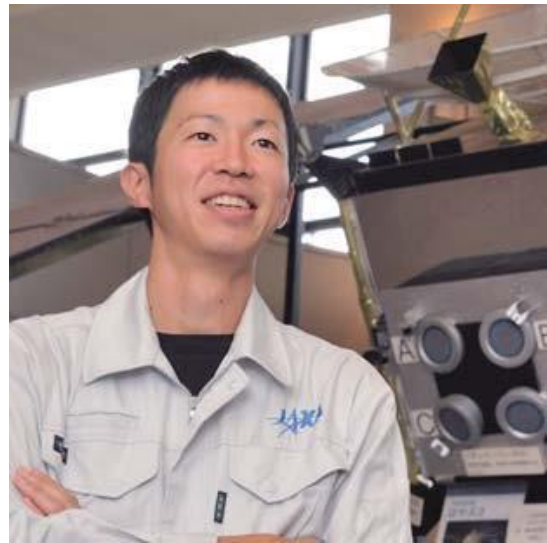
UNISEC15周年記念イベントの開催、おめでとうございます。

学生代表としての経験や、その中で出来た多くの仲間との繋がりは、社会に出てからも大きな財産となっており、私自身、当時は辛い思いの方が多かった気はしますが、今UNISECを支えている学生の皆さんには、ぜひ積極的に様々な新しいことにチャレンジしてもらいたいと思っています。

UNISEC創設から15年が経ち、多くのOB/OGが宇宙業界の内外で、重要なポジションに就くようになってきていると思いますので、いよいよUNISECで構築された横の繋がりが、日本の宇宙開発をより良いものへと力強く推し進めていく時代になるのだと思います。

まだまだ未熟な身ですが、私もその一人となれるよう、より一層の努力を重ねていきたいと思っています。

UNISECと所属する皆様の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



2010年度 梯 友哉 様

(所属：慶応大学 現在：JAXA)

このたびは創立15周年を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。そして、他人事ではなく、その一端を担うことができたこと、大変光栄に存じます。

私は、UNISECで、CanSatや衛星開発に全力で取り組むと共に「繋がり」を大事にして、「CanSatとロケットのコラボレーション」や既に現役の学生さんをご存知ないかもしれませんが「運動会」などを企画しました。

それらUNISECで培った技術や経験を基に、そして、UNISECで得た仲間と共に現在も、本気で宇宙開発に取り組んでおります。

UNISECに抱く思いはそれぞれ異なるかもしれませんが、ひとりひとりが自身の目標に向かって本気で取り組み、UNISECが、宇宙分野が、日本が、世界が、益々発展していくことを祈っております。

・・・いや、祈るのではなく、一緒に発展させていきましょう！



2011年度 春木 美鈴 様
(所属：CORE 現在：JAXA)

UNISEC15周年おめでとうございます。
今思えば、自分は代表としてあまり役に立てなかった気がしますが、伊藤君や牟田さんをはじめUNISONのみなさんと活動ができたことはとても大切な時間でした。
学生のみなさん、1日1日を大切に、各々の開発頑張ってください！陰ながら応援しています！



2011年度 伊藤 琢博 様
(所属：大阪府立大学 現在：JAXA)

UNISECで経験を共にした方々は「同じ釜の飯を食った仲間」のような存在です。今の仕事でも、JAXA、メーカー、アカデミックの立場に関わらず、UNISECで同じ時間を過ごした方々には特別な信頼を置くことができます。

でもそれは、同じ大会、相乗り打上げ、共同実験といった場で本気で競い合い、認め合い、向き合った体験があつてこそ。UNISECに加入して間もない方は、自団体の外に、良き競争相手、相談相手を見つけて切磋琢磨して下さい！そうすれば明るい未来が待っています！



2013年度 嶋崎 信吾 様
(所属：日本大学 現在：JAXA)

UNISEC15周年誠にありがとうございます。
15年前の発足当時と現在では学生衛星・ロケットを取り巻く状況は大きく変化しているかと思いますが、その中でUNISECが発展を続けてこられたのはひとえに関係する皆様のご努力と「本気で宇宙を目指す」という思いの賜物と思います。
UNISECの益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



2013年度 小西 隆介 様

(所属：慶応大学 現在：在学中)

2013年度 CanSat 学生代表の小西です。今日は出席できず申し訳ございません。

自分が担当した ARLISS で嵐に遭い、危うく砂漠で遭難しかけたのは今となっては良い思い出です。博士論文の研究は宇宙ではなく電力ですが、ご縁があり4月からは宇宙分野にも若干繋がりがあるとある商社で働きます。今後何かしらの繋がりで顔を出せたらと思います、よろしく願います。



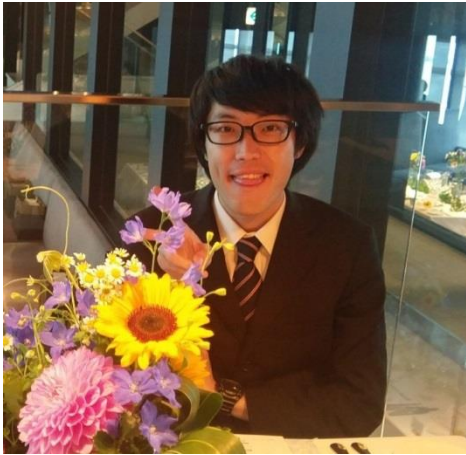
2014年度 草野 悠太 様

(所属：東海大学 現在：㈱リクルート)

本日は本当におめでとうございます。

UNISEC には様々なことを学ばせてもらいました。衛星ワーキンググループでは、情報共有の場をつくり、大学ごとの情報を個々に持つのではなく、各大学が連携して良い情報を共有できるようにしました。当時、私が所属していた東海大学は人工衛星の技術としては全く進んでいるわけではなかったため、出せる情報はほとんどなかったですが、ではどうやってこの情報共有のプロジェクトに貢献するのかと考えて、共有の場を作るための運営に奔走していたのは良い思い出です。

また、それ以外にも、第1回 UNISECGLOBAL の開催や共同開発 CanSat、総会やワークショップの運営と、どれも大変でしたが思い返すと良い思い出ばかりです。現在わたしはリクルートで、WEBサービスのサービスデザイナーをやっています。学生時代からは全く違うことをやっているように思えるかもしれませんが、確かに専門分野は異なりますが、なぜそれをやるのかの本質を考えて、様々な人を巻き込み、実行力をもってやりきるという姿勢は学生時代と変わらず、UNISEC を通して学ばしてもらった経験が今の仕事にもいきているなど日々思います。今後も UNISEC の更なる発展を願っております。



2014年度 田島 友祐

(所属：電気通信大学 現在：在学中)

この度は15周年という大きな節目を迎えますことを心よりお祝い申し上げます。

このような貴重な時間をご一緒に過ごすことが出来ず申し訳ございません。

代表時には、病気により早期に療養に入らせていただいたため、UNISEC代表として多く貢献が出来ておらず、同期代表ならびに多くの皆様のお力をお借りさせて頂いたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

まだ、病気は完治しておりませんが、少しずつ回復に向かっていく状況です。回復次第、またUNISEC活動へ参加し一員として盛り上げていければと思っています。

長くはなりませんが、本日は本当におめでとうございます。



2015年度 渡邊 裕一郎 様

(所属：秋田大学 現在：在学中)

2016年度、ロケット部門UNISON代表を務めさせて頂きいただいた渡邊です。この度は、UNISEC15周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

私がUNISONへ初めて加盟させて頂いたのは2012年でした。それから6年経ちますが、毎年非常に多くの学びと出会いがありました。学部1年生の頃は特に初めてのことばかりで、打ち上げ実験やイベントにおいて、たくさんの迷惑をかけた記憶があります。しかし、UNISECには団体の枠を超えて共通の目標に立ち向かう仲間がたくさんおり、さらには先輩や先生方から指導していただき、多くの知識や経験を身に付けることができました。また、高学年になると、運営という立場で多くの貴重な経験をするチャンスがいただけました。特に共同打ち上げ実験やワークショップなどでは、UNISONのみならずUNISASの方にもご協力いただきながら、非常に実り多きイベントを開催することができました。UNISECの方々には、企画側も参加側もモチベーションの高い方が多くおり、とてもやりがいを感じました。これらの経験は、現在あらゆるものへ立ち向かう際の糧となっております。

つたない文章で恐縮ですが、最後に、UNISECの今後のさらなるご発展をお祈り申し上げます。